

日本・アセアン経営者会議に参加して
- ベトナム・ホーチミン市で考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

私は、9月29日からベトナムのホーチミン市に行かせていただき、10月3日朝発の飛行機で帰ってきました。ホーチミン市に出かけた目的は、第35回日本・アセアン経営者会議に参加するためです。

経済団体の一つに、経済同友会があります。経済同友会は日本各地のいろいろなところにあります。私は栃木県、群馬県、福島県の経済同友会、そして東京の経済同友会の4つに入らせていただいています。

2. (1)東京の経済同友会では、「日本・アセアン経営者会議」をアセアン諸国の人々とともに毎年1回開催しています。昨年はブルネイ、一昨年はインドネシア、一昨年はマレーシア、その前の年は日本というように、日本とアセアンの国々の持ち回りでを行っています。

(2)これは何のための会議かという、日本とアセアンの国々との経済関係をよくしよう、特に貿易(もの・お金・人材に行き来)をできる限り自由にしようということを目的としたものです。皆様も耳にすることがあると思いますが、FTA(Free Trade Agreement フリー・トレード・アグリーメント 自由貿易協定)やより広い意味でのEPA(Economic Partnership Agreement エコノミック・パートナーシップ・アグリーメント 経済連携協定)をアジア、特にアセアンの国々とのように結んだらよいかを35年間かけて経営者同士で話し合っています。

(3)お陰様で、日本はベトナムとも本年の10月1日からFTAが結ばれました。これまでもブルネイやシンガポールをはじめいろいろな国々とFTAを結んでいます。これにより日本のFTAはさらに広がってきました。もの・お金・人材の流れをより自由にするために有難いことであると思います。

3. (1)今回の会議で一番言われたことは、働く人がアセアンの国々から日本にもっとスムーズに入れるようなしくみをつくってほしいということでした。インドネシアの方々からは以前にも、英語の先生や介護福祉士などの医療関係者がもっと自由に日本に入れるようにしてほしいと言われました。私たちも日本政府に何度も何度もお願いに行きましたので、いくらかずつ形ができてきたように思います。ちなみに、インドネシアの方々には英語がとても上手です。

(2)アセアンの国々には仕事がなく本当に困っている方がたくさんいて、また、日本で働きたいという方もたくさんいるので、日本国内にフィリピン・インドネシア・タイ・マレーシアなどのアセアンの国々の方たちがもっともっと自由に入れるしくみを早くつくってほしいと、フィリピンの方からもお願いされました。

(3)日本は人口減少社会で、サービス、特に介護などの医療関係のサービスに従事する方が足りなくて困っているのであれば、その一端をアセアンの国々で担わせてほしいという要望もありました。また、障壁(バリア)が高く、すべて日本語で行われる資格試験に合格できなければ働けないというのは困難すぎるのではないかと指摘も受けました。

(4)私は、実際に働くにあたって、すべて漢字で出題されるような試験が必要であるかどうかは疑問です。働く人が少なくて介護や医療がうまくいかないのであれば、外国の方がそこで働けるようになる親切な対応があってもよいと思います。例えば、漢字には仮名をふることも考えられるでしょう。さらに極端なことを言うと、必要な言葉は日本語で覚えてもらわないといけません。医学的な知識や介護に関する知識、専門的な知識は英語で出題して資格を取得していただき、実際に現場で働いていただくというのも一つの考えではないかと思っています。

(5)その旨の発言をさせていただいたところ、そのようにしていただければ有難いと皆さんに言われました。

4.(1)日本はこのままだと人口がどんどん減っていきます。一方で、アジアやアセアンの国々の中には人口爆発が起こっているところ、つまり人口が増えすぎて困っているところもあります。特にベトナムやインドなどは、国民の平均年齢はまだ30代に入っていません。28.5歳ぐらいです。カンボジアにも人がたくさんいて、英語を流暢に話すことのできる優秀な方も多いようです。ですから、アジアやアセアンから専門職の方々の日本に来ていただき、働いていただくとよいと思います。

(2)英語の話が出ましたので、それについて少し付け加えさせていただきます。10年ぐらい前にベトナムに行ったときに比べると、ベトナムの方の英語はとても上手になっていました。そこで、英語が上達した理由を聞いてみると、英語が話せないと仕事ができないから皆、懸命になって英語を学んでいるためだということでした。

(3)早い子は3歳ごろから英語の学校に行き、幼稚園生になっても学び続けるそうです。そして、英語をなるべく多く勉強できる小学校に行くそうです。私立の小学校やインターナショナルスクールでは1週間に3回英語の勉強をし、中学校や高校はもちろん、大学ではどの学部でも卒業するまで1週間に3回ぐらいは英語を勉強しているとのこと。このようにして確実に英語力を身に付け、加えてコンピュータの力をつけないとよい仕事には就けないということで、皆さん必死になって自分の専門の他に英語とコンピュータの勉強をしています。

(4)ベトナムの方だけでなく、カンボジアの方もマレーシアの方もインドネシアの方も、それぞれの10年前に比べると格段に英語力が伸長しています。日本人もうかうかしてられません。私も含めてですが、皆さんにも目を広く開いていただいて、アセアンの国々・人々との交流、特に英語を通じた交流ができるようにしなければならぬと強く感じました。

5.今日は、日本・アセアン経営者会議に参加して感じたことや考えたことをお話させていただきましたが、皆様はどのようにお考えでしょうか。

- 2010年7月3日校正 -